

第6章 研究の成果と課題

本研究を通して、不登校の未然防止と支援においては、「児童生徒理解」と「自己肯定感や所属感を高める働き掛け」が重要であることを明らかにした。

不登校の未然防止モデルとしては、「基礎情報の収集と分類」や「集団用『学校楽しいと』分析シート」、「所属感を高めるための働き掛けの視点」を、不登校の初期対応のモデルとしては、「基礎情報の分類に応じた初期対応の流れ」、「保護者との具体的な対応例」、「チーム支援シートを活用したチーム支援の在り方」を提案することができた。さらに、長期化している不登校対応のモデル事例については、二つの視点「職員間の支援体制を生かした対応事例」と「関係機関との連携を生かした対応事例」から提案することができた。

今後の課題としては、長期に係る不登校対応モデルの精度を高めていくためにも、更なる事例収集と分析、検討が必要であると考えられる。

おわりに

不登校に関するこれまでの優れた学術研究が学校現場に提供してきた成果を参考にしつつ、教師たちは数多くの困難な実践により、個々の不登校の解消に相応の効果を挙げてきた。その一方で、不登校対応の認識と実践は社会的自立に向けての生き方支援へとシフトしてきており、この認識と実践を研究機関として支援することは重要である。

本調査研究では、不登校に関する教職員と児童生徒のアンケート結果の考察及び児童生徒理解に有効性が立証されている「学校楽しいと」を活用した実践事例を基に、不登校の未然防止と初期対応及び長期化している児童生徒への対応に取り組む際のモデルを提示することができた。これらを通して、各学校における不登校対応が眼前の現状打開のみに傾注することなく、将来への展望をもって効果的に取り組むための一助になれば幸いである。

最後に、本研究を進めるに当たり、アンケートに御協力いただいた各市町村教育委員会や各学校、実践事例を提供していただいた研究協力員の先生方、御指導や御助言を頂いた鹿児島大学教育学部の大坪治彦先生に心からお礼を申し上げたい。

【引用・参考文献】

- 文部科学省 『生徒指導提要』 平成22年 3月
- 国立教育政策研究所 『中1 不登校の未然防止に取り組むために平成13-15年度「不登校生徒調査」から』 平成17年 7月
- 国立教育政策研究所 『中1 不登校生徒調査（中間報告）－不登校の未然防止に取り組むために－』 平成15年 8月
- 国立教育政策研究所 『不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つQ&A』 平成24年 6月
- 時田和永・谷 英俊 『不登校予防の指針に関する検討(1)』平成25年 9月 日本心理学会
津川秀夫 『不登校予防の指針に関する検討(2)』平成25年 9月 第77回大会論文集
- 神奈川県教育委員会 神奈川県不登校対策検討委員会報告書 平成21年 5月
- 菅野 純 不登校 未然防止と支援Q&A70 平成20年 8月 明治図書
- 鹿児島県総合教育センター 『研究紀要第117号』 平成25年 3月